

## 第6回サマーカーニバル趣意書 20180514

今年で第6回を迎えるいってみ〜ひんサマーカーニバル in 奈良ロイヤルホテル。  
さて 今年の目玉は???

春は お水取り  
夏は 燈花会 大文字送り火  
秋は 春日若宮おん祭り 正倉院展  
冬は 若草山山焼き 万灯籠

四季折々の季節絵巻が私たちを楽しませてくれます。

では福祉の歳時記では。

春は 春咲きコンサート  
初夏 つながり祭  
夏は いってみ〜ひんサマーカーニバル in 奈良ロイヤルホテル  
秋は オータムアミーゴフィエスタ  
冬は 奈良福祉夢基金人形劇ひとみ

障がいをもつ人たちが参加できる場所が増えました。

共生の世界（共に生きる世界）の実現が出来てきたかのように感じます。

しかし、逆に私たちが開催するイベントには一般の方の参加が少ないのが現状です。  
私たちの企画力（財力）にも課題があると考えていますが、共生の世界（共に生きる世界）は程遠いのが現状かもしれません。

「公平と平等」・「区別と差別」良く人権問題にこの言葉が出てきます。

### 「公平」と「平等」

この話で良く使われるのがケーキの分け方です。

平等・・・家族4人でケーキを4つに等しく分けます

公平・・・家族4人の体型や年齢を考慮して4つに分けます

公正・・・平等や公平のルールを守って、お母さんがケーキを切り分け4人の家族へ1つずつケーキを配りました。

社会保障制度では「公平」を重んじてきました。

それは原理原則と思いますが、最近は「差別」だとか「不平等」だとか言う傾向が見られます。

例えば「生活保護」に関して、1950年の法施行依頼、人々の生活を保障するための最後の砦と言われ続けてきました。

また「最低賃金」の設定方法や「老齢基礎年金」「障害基礎年金」の水準を考えると、この3つのバランスがおかしくなっていると考えます。少なくとも平等性を重視する為に公平性が失われているように感じます。

日本の政策を振り返ることで、さらに良くするキーワードがあるのではないのでしょうか。

## 「差別」と「区別」

ある小学校の運動会。「足が速いか遅いで順位を決めるのは差別だから、みんなで手をつないで一緒にゴールするようにしましょうね」という意見が出て、その通り全員同時ゴールをさせました。

最近「区別」と「差別」を混合して使うことが多くなったと感じます。

「差別」は比較することで優劣や上下関係で分けること。

「区別」は対等な関係を保ちながら違いを認めること。

辞書には記載されています。

さらに、「差別」は非合理的な差の確認、「区別」は合理的な差の確認との記載もありました。

足の速さで順位をつけるのは「合理的な差の確認」と考え、運動会で順位をつけるのは差別ではないと考えます。

運動会でゴールした順番で順位をつける。これは足の速さのみの順位であり、「足の速さ」が「人間の価値」ではないことに気付いてほしいのです。

しかし、私の経験から小学生の頃、運動能力のようなわかりやすい指標を人間の価値と勘違いする傾向はありました。

教師がやるべきことは、手をつないで同時にゴールさせることではなく、足の速さで順位をつけるが、「これは、足が速いか遅いかということだけであって、他の事には関係ない。ましてや人間の価値はこんなものでは決まらない」ということを子供に伝えることだと思えます。

サマーカーニバル運営委員会の考え方は、人は誰もが公平であり、時には区別も必要な場面があります。

サマーカーニバルは、総ての人は対等な関係を保ち、時にはその人の立場を考慮して共に楽しめる空間を提供できればと考えています。

今日は「昨日の未来」「今日は明日の過去」「今日は今日しかない一日」 サマーの日。